

山口蓬春記念館

年報

第四号

令和5～6年度

Vol.4 YAMAGUCHI HOSHUN MEMORIAL MUSEUM

目次

I. 展示及び関連イベント等の概要(令和5～6年度)	3
II. 収蔵品修復(日本画)	15
収蔵品修復(工芸)	17
III. 収蔵品保存対策	20
IV. 新収蔵品	21
V. 収蔵美術品の貸出し	23
VI. 刊行物の発行	25
VII. 外部機関への協力、連携等	26

I. 展示及び関連イベント等の概要(令和5～6年度)

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5月8日より「5類感染症」に分類されることになり人々の活動も新型コロナ禍前の状態に戻るようになった。一方、猛暑の影響により逗子・葉山地域への海水浴客も減少し当館の来館者数も伸び悩むなど気候による影響が見られた。

令和5年度は企画展を3回、特別展2回を開催。特に山口蓬春生誕130周年にあたることから、秋に生誕130周年を記念した特別展「山口蓬春と福島—その色褪せぬ美が伝えるもの」を開催。また、初冬企画展として令和5年2月に国登録有形文化財に登録されたことを記念し、建物にスポットを当てた初冬企画展「山口蓬春と吉田五十八」を開催した。また新春特別展として人気作家である藤田嗣治と山口蓬春の関係を紹介した「嗣治と蓬春—二人の見た風景」を開催、好評を博した。

また、令和5年10月に山口蓬春記念館にFree Wi-Fiを設置、令和6年2月にキャッシュレス決済システムを導入、令和6年3月にはホームページのリニューアル、SNS等を用いた広報の強化など主にシステム面での刷新を行った。

令和6年度は完全にポストコロナへと移行、令和2年度から実施していた開館時間の短縮(9:30開館、15:30閉館)をやめ、4月より10:00開館、16:30閉館とした。引き続き猛暑の年となり、8月には初の「南海トラフ地震臨時情報」も出されるなど、夏季の集客には厳しい状況となった。

令和6年度は、企画展を3回、特別展を2回開催した。夏の企画展は「受け継がれるみやび」をサブテーマに、前期は「祇園会と古都の情景」を後期は当時放映中のNHK大河ドラマ「光る君へ」にちなみ「蓬春と源氏絵」を開催。京都の絵師・林美木子氏にもご協力いただき同氏の作品も展示するなど工夫した。秋季特別展では、人気の東山魁夷と蓬春の関係性に注目した「魁夷と蓬春—美への眼差し—二人の日本画と珠玉のコレクション」を開催、多くの方にご来館いただくことができた。新春特別展では横浜の大佛次郎記念館と連携した「大佛次郎と山口蓬春—時代を拓いた小説家・画家」を開催。また当館のイベントとして開催している呈茶会も従来の葉山町茶道連盟に加え、近隣の神奈川県立横須賀高等学校と同逗子葉山高等学校茶道部による呈茶会を開催するなど、令和5年4月施行の改正博物館法の趣旨に沿った、他館や地域との連携を意識した取り組みを行った。

令和6年度は10月に財団名を「公益財団法人JR東海文化財団」に変更、併せて美術館であることを明確に示すため山口蓬春記念館の英語名を「YAMAGUCHI HOSHUN MEMORIAL MUSEUM」に確定した。

(文責:館長 加藤泰也)

春季企画展

山口蓬春・新日本画の描き方—教えて、蓬春先生!—

開催期間:令和5年4月8日(土)～6月4日(日) ※会期中、一部展示替えを行った。

前期:4月8日(土)～5月7日(日)

後期:5月9日(火)～6月4日(日)

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会

開館日数:50日

担当学芸員:岡田 修子

チラシ

山口蓬春「花菖蒲」、写真「葉山の画室にて」



今日、日本画と呼ばれる絵画の歴史は古く、奈良時代から平安時代にかけて中国大陸や朝鮮半島などを經由して日本にもたらされた。日本画で用いる主要な絵具は、岩絵具という天然の鉱石を粉末状に砕いた顔料に膠を混ぜたもので、その発色の美しさは日本画の特色の一つにあげられる。現在でも東アジア諸国、シルクロードの要衝の地には、日本画の源流ともいえる膠を接着剤にして色料を画面に定着させる膠絵(膠彩画)というような絵画が伝存しているが、この絵画技法を今日まで継承しているのはわが国の日本画のみであり、世界的にみても貴重な絵画といえる。

しかし、私たちが使用している「日本画」という言葉自体は、明治時代にアメリカの美術研究家・フェノロサの講演を契機とし、西洋画に対して伝統的な日本の絵画の総称として名付けられた。日本画の概念には伝統的な日本の絵画を総称する意味と、伝統的な日本の絵画技法を継承しつつも西洋画法を取り入れた新様式の絵画を総称する意味があるといえる。

日本画家・山口蓬春(1893–1971)は、東京美術学校西洋画科に入学するも日本画科に転科し、以後、戦前から戦後へと時代が激しく移り変わるなかで伝統的な絵画技法を究め、かつ、「新日本画」の創造を目指し邁進し続けた。蓬春は、西洋画と日本画という二つの知識と技法を会得したことで、奇しくも日本画が内包してきた伝統と革新という要素を、身を持って体得し、実践してきた画家ともいえる。

本展では、蓬春の言葉の軌跡を辿りながら、その作品の描き方はもちろん、審美眼によって蒐集されたコレクション、また、残された画材類を通じて蓬春が求めた「新日本画」の創作過程を解き明かした。

【主な展示作品】

作品名	作家名・生産地	制作年	材質・技法
薔薇 写生	山口蓬春(1893–1917)	昭和40年(1965)	紙、鉛筆・色鉛筆・水彩
瓶花 下図	山口蓬春	昭和40年(1965)	紙、鉛筆・色鉛筆
瓶花	山口蓬春	昭和40年(1965)	紙本着色
紫陽花	山口蓬春	昭和34年(1959)	紙本着色
静物(遼三彩と果物)	山口蓬春	昭和31年(1956)	紙本着色
黒釉鉄絵玉壺春瓶	中国・磁州窯	宋–金時代(12–13世紀)	磁器
伊勢物語図色紙「梓弓」	俵屋宗達(?–1640)頃	江戸時代初期(17世紀前半)	紙本着色
扇面流し	山口蓬春	昭和5年(1930)	紙本着色
草蟲図	作者不詳	江戸時代(17世紀)	紙本着色
呂敬甫筆草蟲図 模写	山口蓬春模	大正7–12年(1918–23)頃	紙本着色

※出品作は全て当館所蔵

【関連イベント】

展示解説	「国際博物館の日」来館者プレゼント	子どもと大人のための美術に親しむ教室
日時:①4月14日(金)、②21日(金)、③28日(金)、④5月5日(金・祝)、⑤12日(金)、⑥19日(金)、⑦26日(金) 10:30– 参加人数:①0名、②4名、③3名、④10名、⑤5名、⑥3名、⑦2名	日時:5月18日(木) 内容:来館者全員に絵葉書を差し上げました。	日時:6月3日(土) 13:00–16:00 会場:多目的室 講師:当館学芸員 参加人数:11組22名(応募者12組25名)

夏季企画展

山口蓬春の描いた古典と現代—技を知り、文化を伝える—

開催期間:令和5年6月10日(土)～9月24日(日) ※会期中、一部展示替えを行った。

前期:6月10日(土)～7月23日(日)

後期:8月5日(土)～9月24日(日)

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会

開館日数:80日(2日間は臨時休館のため)

担当学芸員:笠 理砂

チラシ
尾形光琳《飛鴨図》
山口蓬春《まり藻と花》《枇杷》



明治維新後に西洋文化が流入、それまでの伝統文化が軽んじられたことに加え、廃仏毀釈による仏教寺院の廃頽や、美術品の海外流出などを背景に、明治22年(1889)、日本の伝統美術の振興を図るべく東京美術学校が開校された。

山口蓬春(1893–1971)は大正4年(1915)、この東京美術学校西洋画科に入学。その後、指導教官のアドバイスから大正7年(1918)に日本画科へと転科し学ぶことになる。伝統を重んじる校風はその学習環境において顕著であり、蓬春が日本画科に進んだ大正中期においても東洋絵画の臨模(模写)が実技授業に積極的に取り入れられた。

大正期から昭和初期にかけては、旧大名家や華族層が経済的苦境に陥り、伝世の名品を売却することが多くあった。蓬春は売立目録を手し、明治期に成立した最大規模の個人コレクション・井上馨旧蔵品の伝雪舟《円窓草花》(室町時代)、そして酒井抱一の庇護者であった豪商・大澤家が旧蔵した尾形光琳《飛鴨図》(江戸時代)を求めている。戦後の経済・社会の混乱によって文化財の散逸や毀損、海外流出等が頻繁に起きていた中、蓬春が「黙っていたら今にも国外にもっていかれそうな気配なのでなんとか保護してやらなければ」と無理を承知で入手した作品が、伝土佐光吉筆《十二月風俗図》(桃山時代、重要文化財)であった。

こうして日本の伝統文化を守り、その真価をみとめ、自らの画業にも活かしてきた蓬春だが、著書『新日本画の技法』^(*)において「近代の教育を受けた者はその藝術鑑賞の対象が世界的に広がり、殊に西欧の近代美術が取り上げられるようになった。」と述べ、新しい日本画の創造には西欧の美術にその精神を学ぶことの必要性も強調している。蓬春は、戦前よりいち早くフランス現代作家の複製画を入手し、戦後はフランスの美術書籍やリトグラフを次々に購入した。戦後間もない時期に開かれたピカソ、マティス、ブラックの展覧会に足を運び、西欧近代美術への審美眼を磨き、自らの感性を研ぎ澄ませていった。

本展では美術家・山口蓬春が、古典美術と現代美術という一見相対する芸術を理知的に捉え、それらの真髄を新しい日本画の創造に昇華した経緯を、蓬春の日本画、古典の模写、蒐集した美術品ならびに良質な美術書籍を通じてご覧いただいた。蓬春の奥深い美への追求と審美眼を通じて、ゆたかな美術の世界を紹介した。

*山口蓬春『新日本画の技法』美術出版社、昭和26年(1951)

【主な展示作品】

作品名	作家名	制作年	材質・技法	所蔵
吉祥天女像模写	山口蓬春(1893–1971)模	大正7–12年(1918–23)頃	紙本着色	山口蓬春記念館
北条実時像模写	山口蓬春	大正7–12年(1918–23)頃	紙本着色	山口蓬春記念館
重要文化財 十二月風俗図より「七月風流踊」	伝土佐光吉(1539–1613)	桃山時代(16世紀)	紙本着色	山口蓬春記念館
何仙姑	吉川霊華(1875–1929)	大正11年(1922)	絹本墨画淡彩	山口蓬春記念館
獅子狛犬 吉川霊華旧蔵	作者不詳	鎌倉時代(13世紀前半)	木彫	山口蓬春記念館
『光琳畫譜』	谷口香嶠(1864–1915)編 田中治兵衛発行	明治24年(1891)	彩色木版刷	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
『光琳派畫集』	田島志一(1869–1920)編 審美書院発行	明治39年(1906)	彩色木版刷	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
『新撰宗達派畫集』	聚楽社発行	昭和14年(1939)	彩色木版刷	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
『琳派百華譜』第15集・夏の巻	内田美術書肆発行	昭和5年(1930)	彩色木版刷	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
アネモネ	ジョルジュ・ブラック(1882–1963)原画 ツイン・エディションズ発行	原画:1925年	スクリーン印刷	山口蓬春記念館

【関連イベント】

展示解説	夏休み親子鑑賞期間割引	ワークシートの作成
日時:①6月16日(金)、②6月23日(金)、③6月30日(金)、④7月7日(金)、 ⑤7月14日(金)、⑥7月21日(金)、⑦8月11日(金・祝)、⑧8月18日(金)、 ⑨8月25日(金)、⑩9月1日(金)、⑪9月15日(金)、⑫9月22日(金) 13:30– 参加人数:①4名、②2名、③5名、④0名、⑤0名、⑥0名、⑦2名、⑧0名、 ⑨2名、⑩0名、⑪2名、⑫5名	期間:8月5日(土)～8月31日(木) 人数:17名	後期展示作品にあわせてワークシートを配信した(Webでの配信)。

山口蓬春生誕130周年記念特別展

山口蓬春と福島——その色褪せぬ美が伝えるもの——

開催期間:令和5年9月30日(土)～11月26日(日)

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会・福島県

開館日数:50日

担当学芸員:吉田 敬

チラシ
山口蓬春《山湖》《青沼新秋》

令和5年(2023)10月に山口蓬春(1893–1971)の生誕130周年を迎えた。蓬春は生涯を通じて新しい日本画の創造に邁進し、一つの型にとらわれず実に多くの作品を生み出した。特に疎開先の山形県赤湯から昭和22年(1947)に風光明媚な神奈川県葉山に移り住んだ蓬春は、戦争という暗い時代を払拭するような冴えわたる色彩の《山湖》を発表する。西欧近代絵画の影響が顕著な同作品は福島の実磐梯で取材したものだ。彼の画業を振り返ると福島の自然を題材にしている作品が実に多く見受けられる。モダンな作風が続く昭和20年代最後に描かれた《青沼新秋》は、しばらく離れていた自然の風景を題材にしており、奇しくも戦後の出発点である《山湖》と同じ実磐梯に取材している。そして、昭和37年(1962)に制作した《春》では、福島の飯坂温泉付近で写生した梨の太木を描いている。福島の地以外で取材した作品を含む四季の連作《春》《夏》《秋》《冬(枯山水)》は、昭和40年(1965)に完成する。同年には長年の画業の功績が認められ文化勲章を受章している。さらに昭和43年(1968)の皇居宮殿正殿松の間杉戸《楓》や、最後の日展出品作となった明るく輝くような向日葵を描いた《陽に展く》も福島で取材したものである。節目節目の作品に東北・福島の地が選ばれたのは、東北に先祖を持つ蓬春の同地への思いではないだろうか。

本展では、蓬春生誕130周年を記念して、福島で取材した作品を中心に、今なお色褪せぬ蓬春の美への追求について改めて振り返った。

【主な展示作品】

作品名	作家名	制作年	材質・技法	所蔵
山湖	山口蓬春(1893–1971)	昭和22年(1947)	紙本着色	松岡美術館
榻上の花	山口蓬春	昭和24年(1949)	紙本着色	東京国立近代美術館
海辺華	山口蓬春	昭和25年(1950)頃	紙本着色	株式会社ヤマタネ
望郷 小下図	山口蓬春	昭和28年(1953)	紙本着色	個人
望郷 小下絵	山口蓬春	昭和28年(1953)	紙本着色	山口蓬春記念館
望郷	山口蓬春	昭和28年(1953)	紙本着色	個人
青沼新秋	山口蓬春	昭和29年(1954)	紙本着色	個人
夏果図(オレンジ皿の静物)	山口蓬春	昭和32年(1957)	紙本着色	松岡美術館
春	山口蓬春	昭和37年(1962)	紙本着色	東京国立近代美術館
陽に展く	山口蓬春	昭和43年(1968)	紙本着色	宗教法人靈波之光
楓図 下図	山口蓬春	昭和45年(1970)	紙、岩絵具・水彩・色鉛筆・鉛筆	山口蓬春記念館

【関連イベント】

展示解説	山口蓬春生誕日	邸園ツアー
日時:①10月6日(金)、②13日(金)、③20日(金)、④27日(金)、 ⑤11月3日(金・祝)、⑥10日(金)、⑦17日(金)、⑧24日(金) 10:30– ※10月27日(金)のみ14:30– 参加人数:①4名、②7名、③1名、④0名、⑤5名、⑥0名、⑦6名、⑧5名	日時:10月15日(日) 内容:山口蓬春の生誕を記念して来館者全員にオリジナルグッズを差し上げた	日時:10月15日(日) ① 11:00– ② 13:30– 会場:本館及び庭園 参加人数:①5名、②1名
第62回 葉山特別見学会	錦秋の呈茶会	
日時:10月27日(金) 9:30–14:30 場所:葉山しおさい博物館・神奈川県立近代美術館 葉山・ 山口蓬春記念館 参加人数:34名(応募39名)	日時:①11月11日(土)、②12日(日) 10:00–14:00 会場:桔梗の間 料金:1席600円(お菓子付き、要別途入館料) 協力:葉山町茶道連盟 参加人数:①22名、②21名	

初冬企画展

旧山口蓬春邸国登録有形文化財登録記念
山口蓬春と吉田五十八

開催期間:令和5年12月2日(土)～令和6年1月28日(日)

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会

開館日数:45日

担当学芸員:岡田 修子

チラシ

山口蓬春《望郷小下絵》(部分)

写真「葉山・山口蓬春邸新画室にて蓬春と五十八」

写真「葉山・山口蓬春邸新画室内観」

写真「葉山・山口蓬春邸新画室外観」



山口蓬春記念館の主屋と画室は、令和5年(2023)2月27日、国登録有形文化財に登録された。また、画室については、完成から今年で丁度70年目を迎える。山口蓬春記念館・公益財団法人 JR東海生涯学習財団では、これらを旧山口蓬春邸としての当館の魅力を再確認・再発信する機会と捉え、初冬企画展「山口蓬春と吉田五十八—旧山口蓬春邸国登録有形文化財登録記念—」を開催した。

当館は、日本画家・山口蓬春(1893-1971)が昭和23年(1948)から亡くなるまでの約23年間を過ごした旧宅で、既存の木造2階建て家屋を蓬春が自邸として購入後、画室をはじめとした増改築を建築家・吉田五十八(1894-1974)が手掛けた。

蓬春と五十八は、大正4年(1915)に東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学し、ともに大正12年(1923)に卒業する。以来、蓬春と五十八は生涯親しく交流を続け、五十八は、蓬春の自宅や画室を設計するだけでなく、自らが設計した建物の内部に蓬春の作品を用いるなど、二人の間には芸術を通じた強い結びつきがあった。絵画と建築の違いはあるにせよ、二人はまさに同時代を生きた同志であったといえる。そんな五十八が蓬春の好みに応じて増改築した旧山口蓬春邸は、二人の芸術家によるコラボレーションともいえるだろう。

本展では五十八が設計した戦前、戦後の画室に焦点をあて、五十八が創造した空間で、蓬春がいかなる名作を生み出したかを展覧しながら蓬春と五十八の交流の軌跡を辿った。また、作品とともに、蓬春や五十八の美意識が息づいた建物や時に作品のモチーフとなった庭園など、蓬春芸術の源泉ともいえる旧山口蓬春邸の魅力をこの機会にご堪能いただくことを目的として開催した。

【主な展示作品】

作品名	作家名	制作年	材質・技法
南嶋薄暮	山口蓬春(1893-1971)	昭和15年(1940)	紙本着色
望郷小下絵	山口蓬春	昭和28年(1953)	紙本着色
画室にて素描	山口蓬春	昭和28年(1953)頃	紙、鉛筆
白蓮木蓮(新橋演舞場緞帳原画)	山口蓬春	昭和32年(1957)	紙本着色
新冬	山口蓬春	昭和37年(1962)	紙本着色
重要美術品稱讃浄土佛攝受經	不詳	天和3年(1683)表装	紙本墨書
三人の裸婦	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	1920年代	紙、墨・グアッシュ

※出品作は全て当館所蔵

【関連イベント】

山口蓬春邸ツアー	展示解説	鎌倉市鐺木清方記念美術館とのコラボ企画 「葉山 鎌倉 日本画家の旧居跡めぐり」
日時:12月2日(土) ①11:00-12:00、②13:30-14:30 会場:本館及び庭園 参加人数:①13名、②11名	日時:①12月8日(金)、②15日(金)、③22日(金)、 ④令和6年1月5日(金)、⑤1月12日(金)、⑥1月19日(金)、 ⑦1月26日(金) 10:30- 参加人数:①4名、②3名、③0名、④4名、⑤8名、⑥6名、⑦11名	期間:令和6年1月4日(木)～2月27日(火) 内容:オリジナルグッズプレゼント(先着順)

新春特別展

嗣治と蓬春 二人の見た風景

開催期間:令和6年2月3日(土)～3月31日(日) ※会期中、一部展示替えを行った。

前期:2月3日(土)～3月3日(日)

後期:3月5日(火)～3月31日(日)

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会

協力:藤田 嗣隆

開館日数:48日(2日間は臨時休館のため)

担当学芸員:笠 理砂

チラシ

山口蓬春(右)と藤田嗣治 写真、
山口蓬春《九龍碼頭》写生、《女の肖像》、《南嶋薄暮》
藤田嗣治《おことさん》



藤田嗣治(1886-1968)と山口蓬春(1893-1971)は、20世紀という日本の歴史と美術とが大きく動いた時代に活躍した二人の画家である。嗣治は明治43年(1910)東京美術学校西洋画科を卒業して間もなく渡仏。乳白色の絵肌に線描する独自の作風を生み出し、日本とパリを制作の活動拠点とする中でパリ画壇での地位を確立した。蓬春は大正4年(1915)東京美術学校西洋画科に進学。その後、日本画科へ転科し同科を首席で卒業後、画壇への華々しいデビューを経て日本画家としての道に進出した。

活躍の舞台を異にする7歳差の嗣治と蓬春。その二人の画家の人生が交差するのは、日中戦争から太平洋戦争にかけてのことであった。昭和16年(1941)に設立された大日本航空美術協会において、嗣治と蓬春は発起人として選出された。翌17年(1942)、二人は同時期にサイゴン、プノンペン、香港、広東などへ派遣を命じられ、4月上旬から6月中旬まで同地域で約3ヵ月にわたって行動を共にしていたのである。

嗣治が昭和17年(1942)から同19年(1944)にかけて蓬春に宛てた書簡6通は山口家によって大切に保管され、現在も記念館に収蔵されている。また、嗣治が広東を訪れた際に描き、蓬春に贈った風景画を、蓬春は丁寧に額装し、戦後も画室に飾るなどして愛蔵していた。

本展示会では当館最新の調査報告に基づき、蓬春の現地での足取りをたどりつつ、嗣治の書簡から二人の関係性を読み解いた。さらに二人が取材先で描きとめた風景、風物に加えて、嗣治と蓬春それぞれによる明治時代の油彩画の肖像画を展観した。

【主な展示作品】

作品名	作家名	制作年	材質・技法	所蔵
香港島最後の総攻撃図	山口蓬春(1893-1971)	昭和17年(1942)	紙本着色	東京国立近代美術館 アメリカ合衆国無期限貸与
マレー風景(カンボジャ風景)	藤田嗣治(1886-1968)	昭和17年(1942)	キャンバス、油彩	平塚市美術館寄託(国際興業コレクション)
北京風景 写生	山口蓬春	昭和18年(1943)	紙、ペン・鉛筆	山口蓬春記念館
南嶋薄暮	山口蓬春	昭和15年(1940)	紙本着色	山口蓬春記念館
拾香集(九龍客舎)	山口蓬春	昭和17年(1942)	紙本着色	山口蓬春記念館
ヴィクトリア・ピーク、香港 写生	山口蓬春	昭和17年(1942)	紙、鉛筆・色鉛筆・水彩	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
九龍碼頭 写生	山口蓬春	昭和17年(1942)	紙、鉛筆・色鉛筆・水彩	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
西貢郊外所見	山口蓬春	昭和17年(1942)	スクラップ	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
横たわる裸婦	藤田嗣治	大正11年(1922)	キャンバス、油彩	神奈川県立近代美術館 北川原コレクション
おことさん	藤田嗣治	明治42年(1909)	キャンバス、油彩	平塚市美術館寄託
女の肖像	山口蓬春	大正元年(1912)頃	板、油彩	山口蓬春記念館
廣東風景図	藤田嗣治	昭和17年(1942)	紙本淡彩	山口蓬春記念館
山口蓬春宛書簡	藤田嗣治	昭和17年(1942)3月14日	紙本墨画淡彩	山口蓬春記念館
猫(『猫の本/A Book of Cats』より)	マイケル・ジョセフ著 レオナルド・フジタ挿絵	1930年	コロタイプ	大佛次郎記念館 (大佛次郎没後50年記念事業参加作品)

【関連イベント】

展示解説	鎌倉市鶴木清方記念美術館とのコラボ企画「葉山 鎌倉 日本画家の旧居跡めぐり」	第63回 葉山特別見学会	弥生の呈茶会
日時: ①2月10日(土)、②2月17日(土)、 ③3月2日(土)、④3月9日(土)、 ⑤3月16日(土)、⑥3月23日(土)、 ⑦3月30日(土) 13:30- 参加人数: ①6名、②5名、③3名、 ④3名、⑤5名、⑥11名、⑦13名	期間: 令和6年1月4日(木) ～2月27日(火) 内容: オリジナルグッズプレゼント(先着順)	日時: 2月22日(木) 9:30-12:00 場所: 葉山しおさい博物館・ 神奈川県立近代美術館 葉山・山口蓬春記念館 参加人数: 33名(応募65名)	日時: ①3月16日(土)、②17日(日) 10:00-15:00 会場: 桔梗の間 料金: 1席600円(お菓子付き、要別途入館料) 協力: 葉山町茶道連盟 参加人数: ①25名、②24名

春季企画展

生きものを愛でた蓬春—数多くのスケッチとともに—

開催期間:令和6年4月6日(土)～6月2日(日) ※会期中、一部展示替えを行った。

前期:4月6日(土)～5月6日(月)

後期:5月8日(水)～6月2日(日)

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会・公益財団法人日本野鳥の会

開館日数:50日

担当学芸員:吉田 敬

チラシ

山口蓬春《首夏》《春野》《立葵》《河伯》《コリー 写生》
尾形光琳《飛鴨図》(いずれも部分)

花や鳥、魚や小動物など「生きもの」を描くことは、古くから東洋では花鳥画として知られ、その多くの作例は時代を越えて人々を魅了し続けている。山口蓬春(1893–1971)は、そのような伝統的な画題を学びながらも新しい日本画の創造に邁進した。昭和9年(1934)に野鳥の保護や調査を目的とした「日本野鳥の会」が創設されるが、蓬春はその発起人に名を連ねており、彼の野鳥や自然に対する造詣の深さがうかがえる。「花鳥畫の、作品の優劣は、その作家の自然への愛の深さと、観察の力の如何とのみが決まると謂つていい。」(山口蓬春「花鳥畫を描く心」『邦畫』4月号、昭和10年〔1935〕)と述べていた蓬春。愛犬をわが子同然に可愛いがる彼の作品には、生命への愛情をも実感できるほか、数多くのスケッチからは制作に対する真摯な姿勢が伝わってくる。

本展では、蓬春の日本画作品及びスケッチ・模写、ならびに彼が蒐集したコレクションを展示し、蓬春と「生きもの」という観点からその画業を探った。

【主な展示作品】

作品名	作家名	制作年	材質・技法
首夏	山口蓬春(1893–1971)	昭和4–5年(1929–30)	紙本着色
春野	山口蓬春	昭和6年(1931)	絹本着色
立葵	山口蓬春	昭和8年(1933)頃	紙本着色
泰山木	山口蓬春	昭和14年(1939)	絹本着色
河伯	山口蓬春	昭和時代	紙本着色
コリー 写生	山口蓬春	昭和8年(1933)	紙、鉛筆・水彩
山鳩 写生	山口蓬春		紙、鉛筆・色鉛筆・水彩
蓮白鷺図 模写	山口蓬春	大正7–8年(1918–19)	紙本着色
白鷺図	呂紀派	明時代(16世紀)	絹本着色
飛鴨図	尾形光琳(1658–1716)	江戸時代(18世紀)	紙本墨画
蓬春装丁『春宵鳥譚』	内田清之助(1884–1975) 著	昭和17年(1942)	書籍

※出品作は全て当館所蔵

【関連イベント】

展示解説

日時:①4月6日(土)、②13日(土)、③20日(土)、④5月4日(土・祝)、⑤11日(土)、
⑥18日(土)、⑦25日(土)、⑧6月1日(土) 13:30–

参加人数:①0名、②1名、③1名、④1名、⑤6名、⑥5名、⑦1名、⑧2名

「国際博物館の日」来館者プレゼント

日時:5月18日(土)
内容:来館者全員に絵葉書を差し上げた。

夏季企画展

前期 祇園会と古都の情景

後期 蓬春と源氏絵——受け継がれるみやび

開催期間:令和6年6月8日(土)～9月23日(月・振替休日)

前期:6月8日(土)～7月28日(日)

後期:8月10日(土)～9月23日(月・振替休日)

※会期中、一部展示替えを行った。

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会

開館日数:81(2日間は臨時のため)

担当学芸員:笠 理砂

チラシ 山口蓬春《扇面流し》《緑庭》



【前期】

祇園会(ぎおんえ)は平安時代から近世に至るまで、数多くの作品に繰り返し描かれた祭礼である。山口蓬春コレクションの白眉ともいえる《十二月風俗図》(桃山時代、重要文化財)には祇園会を中心として、京洛の人々の一年をめぐる営みが生き生きと描き出されている。

前期展示では伝・土佐光吉筆《十二月風俗図》をはじめ、琳派の祖とされる俵屋宗達《伊勢物語図色紙》、土佐派の流れを汲む住吉具慶《定家卿小倉山荘観楓之図》(江戸初期)、幕末の女流歌人・大田垣蓮月による《騎馬人物画賛》、住吉派のやまと絵師・前田氏實模《宇治之手振》、吉川霊華《樹下美人》、今村紫紅《雷神図》など、やまと絵による祭礼図や年中行事絵、月次絵、名所絵を取り上げた。これらの作品を通じて、古都の情景や往時の人々の暮らしに思いを馳せていただいた。

【主な展示作品】

作品名	作家名	制作年	材質・技法	備考
扇面流し	山口蓬春(1893-1971)	昭和5年(1930)	紙本着色	第10回新興大和絵会展
重要文化財 十二月風俗図より「七月」「八月」	伝土佐光吉(1539-1613)	桃山時代(16世紀)	紙本着色	
伊勢物語図色紙	俵屋宗達(?-1640頃)	江戸時代(17世紀前半)	紙本着色	第7回新興大和絵会展 第5回燦光会展
湯立神事図	作者不詳	室町末-桃山時代(16世紀)	紙本着色	
騎馬人物画賛	大田垣蓮月(1791-1875)	江戸時代後期(18世紀後半)	紙本着色	
武陵桃源	山口蓬春	昭和2年(1927)	絹本着色	
紫陽花	山口蓬春	昭和34年(1959)	紙本着色	

※出品作は全て当館所蔵

【関連イベント】

展示解説	子どもと大人のための美術に親しむ教室
日時:①6月8日(土)、②15日(土)、③22日(土)、④7月6日(土) 参加人数:①4名、②1名、③3名、④0名	日時:7月27日(土)13:00-16:00 会場:多目的室 講師:当館学芸員 参加人数:5組10名

【後期】

新興大和絵会同人の座談会^(※)において、各自好きなやまと絵の代表作を挙げるよう求められた蓬春が「源氏物語は外せない」と答えたのが、蓬春と源氏絵とを結ぶ最初の接点であった。その雅さに惹きつけられた蓬春は、戦後、谷崎潤一郎新訳『源氏物語』挿図のうち「薄雲」「繪合」「松風」「槿」を担当、それらの画稿は当館に伝わり、今回が初出品となった。

後期展示では谷崎本『源氏物語』挿図の木版摺原画と画稿、加えて蓬春が参考品として求めた、精巧な木版摺で知られる川面義雄版《源氏物語絵巻》、これまでその存在を知られていなかった蓬春模写《源氏物語 御法》を初めて公開するとともに、東京藝術大学の教育課程において制作された高橋朋子による《源氏物語絵巻》現状模写、有職彩色絵師・林美木子による源氏絵と工芸美術など、やまと絵の伝統を現在に繋ぐ品々を紹介した。

※「新興大和絵座談会」(『美之國』4-5、昭和3年〔1928〕収載)

【主な展示作品】

作品名	作家名	制作年	材質・技法	所蔵
緑庭	山口蓬春(1893-1971)	昭和2年(1927)	絹本着色	山口蓬春記念館
紫式部日記絵巻断簡 模写	山口蓬春模	昭和2年(1927)頃	紙本着色	山口蓬春記念館
源氏物語絵巻 木版本 東屋 一	川面義雄(1880-1963)	昭和30年(1955)	木版多色刷	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
ものがたりぬき寫(前田氏實田蔵住吉繪所傳來粉本)	大嶋克俊(生没年不詳)模	文化11年(1814)	紙本墨画淡彩	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
「佐竹三十六歌仙」のうち小野小町 模写	山口蓬春模	昭和2年(1927)	紙本着色	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
法華経冊子	山口蓬春模	昭和2年(1927)	紙本着色	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
谷崎潤一郎著『新譯源氏物語愛蔵本』「繪合」画稿	山口蓬春	昭和30年(1955)	紙、鉛筆・墨	山口蓬春記念館
国宝「源氏物語絵巻」現状模写 第四十四帖 竹河二絵・詞	高橋朋子(1976-)模	平成17年(2005)	紙本着色	東京藝術大学日本画研究室
源氏物語「御法」模写	山口蓬春模	昭和2年(1927)	紙本着色	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
重要文化財 十二月風俗図より「七月」「八月」	伝土佐光吉(1539-1613)	桃山時代(16世紀)	紙本着色	山口蓬春記念館
源氏絵 夕顔図	林美木子(1966-)	令和5年(2023)	紙本着色	個人
源氏絵 かわほり扇 須磨	林美木子	令和4年(2022)	紙本着色	個人
源氏貝桶 貝覆 一揃	林美木子	平成3年(1991)	紙、貝、顔料	個人

【関連イベント】

展示解説	アーティストトーク	日本画体験教室
日時:①8月10(土)、②8月24日(土)、③9月7日(土)、④9月21日(土) 参加人数:①2名、②3名、③5名、④26名	日時:①8月10日(土) ②9月21日(土) 会場:多目的室 講師:高橋朋子(日本画家) 参加人数:①7名 ②26名	日時:8月21日(水) 13:00-16:00 会場:多目的室 講師:当館学芸員 参加人数:10名(応募者10名)
夏休み親子鑑賞期間割引	【テレビ番組での紹介】	
期間:7月17日(水)~7月28日(日)、8月10日(土)~9月1日(日) 人数:21名	7月19日(金) テレビ東京「なないろ日和」 7月27日(土) テレビ朝日「謎解き! 伝説のミステリー」《紫式部日記絵巻 模写》 7月31日(水) テレビ朝日「じゅん散歩」 9月1日(日) テレビ朝日「日曜マイチョイス」	

秋季特別展

魁夷と蓬春 美への眼差し

—二人の日本画と珠玉のコレクション—

開催期間:令和6年9月28日(土)～11月24日(日)

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会

開館日数:50日

担当学芸員:岡田修子

チラシ

東山魁夷《「朝明けの潮」のための中下図1/6》、山口蓬春《山湖》、
《青龍文中皿》(正徳官窯)、《白磁緑彩龍文鉢》(正徳官窯)、
《加彩馬頭》、《漢瓦白馬俑》



近代日本画壇に大きな功績を残した日本画家・山口蓬春(1893–1971)と東山魁夷(1908–1999)。蓬春は、東京美術学校(現・東京藝術大学)西洋画科から日本画科へ転科し、大正12年(1923)に卒業後、師・松岡映丘(1881–1938)率いる新興大和絵会に参加、伝統的な技法を基盤としつつ古今東西の芸術を吸収しながら、常に時代感覚を意識した独自の新日本画の世界を創り出した。

一方、15歳年下の魁夷は、昭和8年(1933)に同校研究科を卒業後、日本画に洋画的写実を導入した結城素明(1875–1957)に師事、ドイツ留学や戦中戦後の苦難の時代を経て、風景の美しさに開眼する。幻想に富み、静謐で深い情感を湛えた画風は、多くの人々の、心の深奥に響き、魅了してきた。魁夷と蓬春は、世代は異なるが、共に日本画壇を牽引する画家として親交を深めていく。また、二人は創作活動の傍ら、古今東西の美術にも魅了され、その審美眼によって蒐集された古美術品の数々は、その後、彼らの大いなる創作の源泉となった。そして昭和55年(1980)、魁夷は蓬春から譲り受けた古墨「作霖雨」を用いて唐招提寺の障壁画を完成させる。それは、蓬春の愛蔵した古墨が魁夷の技と感性によって芸術へと昇華され、未来に受け継がれた瞬間ともいえるだろう。

本展では、二人が愛蔵した古美術品の数々と蓬春、魁夷の日本画を合わせて展観することで交錯する二人の眼差しとその先にある“美”の姿を探った。

【主な展示作品】

作品名	作家名・生産地等	制作年	材質・技法	所蔵
黄耀	東山魁夷(1908–1999)	昭和36年(1961)	紙本着色	東京国立近代美術館
秋	山口蓬春(1893–1971)	昭和36年(1961)	紙本着色	東京国立近代美術館
山湖	山口蓬春	昭和22年(1947)	紙本着色	松岡美術館
緑響く 複製	原本:東山魁夷	原本:昭和57年(1982)	原本:紙本着色	東山家(原本長野県美術館蔵)
小さな風景	ジョルジュ・ルオー(1871–1958)	年代不詳	キャンバス、油彩	東山家
伊勢物語図色紙 第九十八段「梅の造り枝」	伝俵屋宗達(?–1640)頃	江戸時代前期(17世紀)	紙本着色	東山家(益田孝旧蔵)
詩文 乞食	伝良寛(1758–1831)	江戸時代後期(19世紀前半)	紙本墨書	東山家
彩庭 山帰来香炉	楠部彌弼(1897–1984)	昭和39年(1964)	磁器	東山家
白磁緑彩龍文中皿	中国・正徳官窯	明時代(14–17世紀)	磁器	東山家
加彩馬頭	中国	漢時代(紀元前3–3世紀)	陶俑	東山家
緑彩黒絵鳥文瓶	イラン・カーシャーノ	13世紀頃	陶器	東山家
緑耳付瓶	イタリヤ・ローマ	2–3世紀	ガラス製	東山家
濤	山口蓬春	昭和23年(1948)	紙本着色	東京国立近代美術館
「朝明けの潮」のためのスケッチ(16)	東山魁夷	昭和40–41年(1965–66)	紙本着色	東京国立近代美術館
「朝明けの潮」のための中下図1/6	東山魁夷	昭和43年(1968)	紙本着色	東京国立近代美術館
古唐墨 作霖雨	中国・程君房製	明時代(16–17世紀)	墨	東山家(山口蓬春旧蔵)

【関連イベント】

展示解説	第64回 葉山特別見学会	邸園ツアー
日時:①10/4(金)、②10/13(日)、③10/20(日)、④10/25(金)、 ⑤11/1(金)、⑥11/10(日)、⑦11/17(日)、⑧11/22(金) 13:30– 参加人数:①3名、②9名、③9名、④3名、⑤6名、⑥5名、⑦4名、 ⑧7名	日時:10月10日(木) 9:30–12:00 場所:葉山しおさい博物館・山口蓬春記念館 参加人数:12名(応募13名)	日時:11月3日(日・祝) ①11:00–12:00 ②13:30–14:30 会場:本館及び庭園 参加人数:①9名、②10名
錦秋の呈茶会	明治神宮連携(協力)企画	
日時:①11月23日(土・祝)、②24日(日) 10:00–14:45 会場:桔梗の間 料金:1席1,000円(お菓子付き、要別途入館料) 協力:葉山町茶道連盟 参加人数:①19名、②23名	期間:9月28日(土)～12月1日(日)	

初冬企画展

蓬春絵画の道具立て—一枚の絵画ができるまで—

開催期間:令和6年11月30日(土)～令和7年1月26日(日) ※会期中、一部展示替えを行った。

前期:11月30日(土)～12月27日(金)

後期:1月4日(土)～1月26日(日)

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会

開館日数:44日

担当学芸員:吉田 敬

チラシ

山口蓬春《瓶花》《瓶花 下図》《黒釉鉄絵玉壺春瓶》



日本画の一般的な制作の流れは、写生をもとに下図が作られ、本制作に入るという過程をとる。つまり一枚の日本画ができるまでに多くの写生・下図という副産物ができることになる。山口蓬春記念館には日本画家・山口蓬春(1893-1971)の約1,000点に及ぶ写生や下図のほか、題材となった陶磁器なども多数収蔵されており、それらは蓬春の制作の裏側を知る貴重な資料となっている。蓬春は「日本画に於ける写生の原則は、飽く迄も自分のため、即ち、自分の創作の基礎を作るためである。」^(※1)とし、写生を人に見せることは「丁度舞台人が楽屋の中を見られるようなもの」^(※2)と述べている。また下図は構想をまとめ上げるための純粋な段階であり、本制作と見比べるとその試行錯誤の跡が見受けられる。

本展では、蓬春の日本画を写生や下図、題材の陶磁器という視点から探り、本制作だけでは伝わらない魅力と彼の知られざる制作過程を紹介した。

*1…山口蓬春『新日本画の技法』美術出版社 昭和26年(1951)

*2…山口蓬春『現代名家写生集 第一輯 山口蓬春自選 植物篇』芸艸堂 昭和15年(1940)

【主な展示作品】

作品名	作家名	制作年	材質・技法
瓶花	山口蓬春(1893-1971)	大正12-13年(1923-24)	紙本着色
静物(遼三彩鉢と果物)	山口蓬春	昭和31年(1956)	紙本着色
百合	山口蓬春	昭和32年(1957)	紙本着色
静物	山口蓬春	昭和36年(1961)	紙本着色
ベルシアの鉢	山口蓬春	昭和39年(1964)	紙本着色
瓶花	山口蓬春	昭和40年(1965)	紙本着色
桃(未完成)	山口蓬春	昭和46年(1971)	紙本着色
湊川神社奉獻屏風 小下絵	山口蓬春	昭和9年(1934)	紙本着色
静物(遼三彩鉢と果物) 下図	山口蓬春	昭和31年(1956)	紙、鉛筆・色鉛筆
白百合 下図	山口蓬春	昭和33年(1958)	紙、鉛筆・色鉛筆
瓶花 下図	山口蓬春	昭和40年(1965)	紙、鉛筆・色鉛筆
桃 下図	山口蓬春	昭和46年(1971)	紙、鉛筆・色鉛筆
三彩小鉢 イラン・ニシャプール出土		9-10世紀頃	陶器
白地彩画飛鳥文鉢 イラン・トランスオクシアナ出土		9-10世紀頃	陶器
黒釉鉄絵玉壺春瓶 中国・磁州窯		宋-金時代(12-13世紀)	陶器
白地鉄絵篋耳瓶 中国・磁州窯		元時代(13-14世紀)	陶器
呉須赤絵魚藻文皿 中国・漳州窯		明時代(16世紀)	磁器

※出品作は全て当館所蔵

【関連イベント】

展示解説	邸園ツアー	高校生呈茶会
日時:①11月30日(土)、②12月6日(金)、③14日(土)、④20日(金)、⑤1月4日(土)、⑥10日(金)、⑦18日(土)、⑧24日(金) 13:30- 参加人数:①8名、②6名、③0名、④0名、⑤2名、⑥1名、⑦5名、⑧5名	日時:12月1日(日) ① 11:00- ②13:30- 会場:本館及び庭園 参加人数:①3名、②12名	日時:12月14日(土) 10:30-14:30 会場:桔梗の間 料金:1席600円(お菓子付き、要別途入館料) 協力:神奈川県立横須賀高等学校茶道部 参加人数:33名
日本画体験教室	鎌倉市鍋木清方記念美術館との連携イベント	
日時:1月25日(土) 13:00-16:00 会場:多目的室 講師:当館学芸員 参加人数:9名(応募者10名)	「めぐってみよう! 展示会リレー 日本画ができるまで展 鍋木清方と山口蓬春」 期間:鎌倉市鍋木清方記念美術館 「日本画ができるまで—鍋木清方の制作風景—」8月31日(土)～10月22日(火) 山口蓬春記念館 初冬企画展会期中 内容:オリジナルグッズプレゼント(先着順)	

新春特別展

大佛次郎と山口蓬春—時代を拓いた小説家・画家

開催期間:令和7年2月1日(土)～3月30日(日) ※会期中、一部展示替えを行った。

前期:2月1日(土)～3月2日(日)

後期:3月4日(火)～3月30日(日)

協力:大佛次郎記念館

後援:神奈川県教育委員会・葉山町教育委員会

開館日数:50日

担当学芸員:笠 理砂

チラシ

「バリ燃ゆ」執筆の頃の大佛次郎、国立教育会館蔵帳原画《杜》を制作する山口蓬春



日本画家・山口蓬春(1893-1971)は大正・昭和という激動の時代に新しい日本画を目指して活躍した画家である。日本の古典ともいえるやまと絵の精神を、現代の教養と批判によって新たにし、時代の要請に対して常に鋭敏に反応して近代的な感覚で洗練された清新な絵画を創り出した。小説家・大佛次郎(1897-1973)は大正13年(1924)に発表した『鞍馬天狗』が人気を集め、その後時代小説、現代小説、ノンフィクション、童話など多岐にわたって活躍した。昭和42年(1967)からは大佛が渾身の力を込め、動乱の維新期を描いた史伝の傑作『天皇の世紀』の連載を開始、6年間で全1555回となる長編小説となった。

当時の画壇を代表する9名の画家の一人として蓬春が手掛けた『天皇の世紀』の装画は、すべて良好な状態で現存している。本展覧会では、蓬春によるそれらの装画を大佛次郎の文章とともに公開、あわせて、一般には知られていない蓬春筆の『鞍馬天狗』の単行本口絵「小鳥を飼ふ武士」(昭和26年)を当館で初めて展示した。

画家と小説家、それぞれの生きる世界は異なるが、その素顔や、歴史を鑑みながら未来を切り開く先進的な姿勢に共通した点を見出すことができる。小説と絵画による共同作業の結晶をご覧くださいとともに、横浜市の大佛次郎記念館のご協力を得て、大佛次郎旧蔵の美術品や交流のあった美術家による作品を展示した。大佛次郎記念館ではテーマ展「大佛次郎と山口蓬春—作家と画家、重なるまなざし」を同時開催した。

【主な展示作品】

作品名	作家名	制作年	材質・技法	所蔵
『天皇の世紀』装画	山口蓬春(1893-1971)	昭和42年(1967)	紙本墨画	神奈川県立近代美術館 山口蓬春文庫
『鞍馬天狗画帖』	山口蓬春ほか	昭和26年(1951)	紙本着色	大佛次郎記念館
春苑・虹・時雨・濱風	長谷川路可(1897-1967)	昭和4年(1929)	絹本着色	大佛次郎記念館
水色水指・深向・ぐいのみ	岩田藤七(1893-1980)	昭和41-46年(1966-1971)	ガラス	大佛次郎記念館
清秋	山口蓬春	昭和43年(1968)	紙本金地着色	個人
「西子夫人」写真	大佛次郎(1897-1973)	昭和9年(1934)	写真	大佛次郎記念館
猫の湯屋	吉田永光(1877-1957)	昭和時代(20世紀)	木、土	大佛次郎記念館
新版猫の温せん	歌川芳藤(1828-1887)	明治13年(1880)	版画	大佛次郎記念館
「霧笛」挿絵原画	木村莊八(1893-1958)	昭和8年(1933)	紙、インク・胡粉	大佛次郎記念館

【関連イベント】

展示解説	大佛次郎記念館とのコラボイベント①	大佛次郎記念館とのコラボイベント②
日時:①2月11日(火・祝)、②16日(日)、③24日(月・振替休日)、④3月2日(日)、⑤7日(金)、⑥14日(金)、⑦20日(木・祝)、⑧30日(日) 13:30- 参加人数:①16名、②4名、③4名、④4名、⑤4名、⑥8名、⑦5名、⑧3名	「画家と作家の記念館めぐり」スタンプラリー 期間 1月21日(火)～4月20日(日) 内容 入館料割引の他、先着順で絵葉書を差し上げた。	「大佛次郎記念館研究室職員によるレクチャー」 日時:2月9日(日) 14:00- 講師:大佛次郎記念館研究室職員 金城瑠以 参加人数:14名
大佛次郎記念館とのコラボイベント③	弥生の呈茶会	高校生呈茶会
「山口蓬春記念館学芸員が大佛記念館でレクチャー」 日時:3月22日(土) 14:00- 会場:大佛次郎記念館2Fサロン 講師:山口蓬春記念館学芸員 笠 理砂 参加人数:13名	日時:①3月8日(土)、②9日(日) 10:30-15:00 会場:茶の間 料金:1席1,000円(お菓子付き、要別途入館料) 協力:葉山町茶道連盟 参加人数:①11名、②15名	日時:3月15日(土) 10:30-15:30 会場:桔梗の間 料金:1席600円(お菓子付き、要別途入館料) 協力:神奈川県立逗子葉山高等学校茶道部 参加人数:35名

ワークシートの作成

資料名:『山口蓬春が描いた「天皇の世紀」装画一覧・大佛次郎「天皇の世紀」について』
発行:山口蓬春記念館・大佛次郎記念館

令和6年度

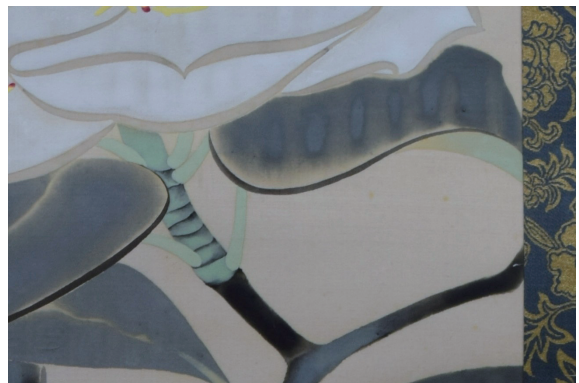
当館所蔵作品・山口蓬春作《泰山木》(昭和14年〔1939〕)は蓬春の第2回個展にも出品された戦前の代表作であるが、絹本部分にシミが見られることと、本絹描画部分のひび割れが確認されたため、今後もこの作品を良好な状態で展示或いは保管管理を実施するために修理作業を実施した。

1. 作業期間 令和6年6月から令和7年3月まで
2. 委託業者 有限会社 目黒黄鶴堂
3. 委託作品 山口蓬春《泰山木》昭和14年(1939) 絹本着色／軸装 作品番号:H22
本紙:153.3×55.5 cm 軸寸:73.7×247.5 cm
4. 修理概要 (1) 本絹全体にシミが見られたことから、精製水にてシミ軽減処置の後、総裏打ち紙を取り換えた。
(2) 本絹描画部分のひび割れから生じた絵具の剥落は、剥落止めの処置を行った。

修理前



修理後



修理前



修理後



令和5年度

本年度は《華角箱》と山口蓬春夫妻が蒐集した人形の修復を実施した。

山口蓬春旧蔵である華角箱は劣化が著しく、現在、展示ができない状態にあり、また、収納箱もないことから、早急なる措置を講ずる必要があった。当館の収蔵品として、未来永劫、美術品としての価値を損なうことなく、また資産保全を図るためにも、当該作品の修理を実施した。

1. 作業期間 令和5年8月から令和6年1月
2. 委託者 山下 好彦(漆工文化財修復)
3. 委託作品 《華角箱》(作品番号:CS33)一合
 法 量: 横394mm 奥行226mm 高さ270mm
 制 作 地: 朝鮮半島
 制作年代: 李氏朝鮮(1392-1897)
 装 飾: 華角(牛角と牛骨、伏彩色)、蓋と身内部青色紙貼り、底面は木地仕上げ

4. 修理概要
 - ・修復方針
 修理の種類: 損傷箇所を対象とした現状維持修理
 修理材料: 日本産修理材料の使用、漆、膠および充填材などの各材料
 - ・修理内容
 (1) クリーニング 内部紙表面と外面を簡易的にクリーニングした。
 (2) 形状修正 剝離して変形した骨の一部を取り外した。
 (3) 剝落止め 剝離した華角片や骨に温熱を加えて膠とクランプで抑えた。
 (4) 照合と接着 剝落片の位置を照合し、膠とクランプで再接着した。
 (5) 素地接着 剝離した素地を刻苧で接着、蓋の形状を整えた。
 (6) 充填と成形 下地の欠失箇所を下地で充填した。
 (7) 後世修理除去 後世修理が骨に被った箇所を重点的に除去した。
 (8) 色調整 作品の全体感を考慮して、ある程度欠失部の色合いを整えた。
 (9) 紙の接着 内貼の紙を小麦粉澱粉糊と布海苔で剝落止めした。



《華角箱》 修理後

修理前



修理後



天板と側面



身角



蓋面取り部分



正面下部



背面下部骨線

山口蓬春夫妻が蒐集した人形は、生前から「桔梗の間」「茶の間」に飾られていたため、経年劣化による傷みが顕著であり、早急なる措置を講ずる必要があった。貴重な収蔵作品の保全を図り、今後とも当館の展示に活用していくために人形の専門家による調査を実施するとともに修復を実施した。

1. 作業期間 令和5年9月7日～11月21日
2. 委託者 林 直輝 (日本人形文化研究所所長)
林 美木子 (有職彩色絵師)
3. 委託作品 《五人囃子》(桔梗の間)(作品番号:CS56～60)5体、《奈良人形》(作品番号:CS32～36)5体、
《御所人形》(作品番号:CS37～55)19体 合計29体
4. 修理概要
 - ・事前調査 令和5年7月6日
 - ・修復方針
人形のもつ雰囲気や表情等を変えないように、経年による味を活かしつつ必要最低限の修復に留めることとした。
人形は移動することによって劣化が進む可能性が高いため、基本的には当館で修復し、状態が安定している一部の人形は、工房に持ち帰って修復した。
 - ・修復内容
埃取りの他、口紅の彩色等を実施した。



「桔梗の間」での修復作業



森川杜園《根付》



奈良人形の一部



御所人形の一部



Ⅲ. 収蔵品保存対策

年度	令和5年度		令和6年度	
環境調査				
調査年月日	令和5年7月24日～8月25日		令和6年8月8日～9月11日	
施工場所	新収蔵庫、収蔵庫、書庫、展示室1～3		新収蔵庫、収蔵庫、書庫、展示室1～3	
施工業者	株式会社フミテック		株式会社フミテック	
調査方法	昆虫生息調査		昆虫生息調査	
	表面付着菌調査		表面付着菌調査	
	空中浮遊菌調査		空中浮遊菌調査	
	酸・アルカリ検査		酸・アルカリ検査	
使用機器名	付着菌調査	栄研化学(株)PT2625	付着菌調査	栄研化学(株)PT2625
		CP加ポテトデキストロース寒天培養地		CP加ポテトデキストロース寒天培養地
	空中浮遊菌調査	MERCK社 MAS100ECO エアーサンプラー	空中浮遊菌調査	MERCK社 MAS100ECO エアーサンプラー
		栄研化学(株)PT2625		栄研化学(株)PT2625
		CP加ポテトデキストロース寒天培養地		CP加ポテトデキストロース寒天培養地
	浮遊粉塵量調査	柴田科学(株) デジタル粉塵計 LD-3C型	浮遊粉塵量調査	柴田科学(株) デジタル粉塵計 LD-3C型
	温・湿度調査	(有)東京吉野計器 アスマン式乾湿球温度計 SS-3BM	温・湿度調査	(有)東京吉野計器 アスマン式乾湿球温度計 SS-3BM
	除塵防黴施工			
施工年月日	1回目:令和5年7月24日 2回目:令和6年1月31日 3回目:3月21、22日		1回目:令和6年8月5、6、7、8日 2回目:令和7年1月29日	
施工場所	1回目:新収蔵庫、収蔵庫 2回目:展示室1～3 3回目:書庫		1回目:書庫、収蔵庫、新収蔵庫 2回目:展示室1～3	
施工業者	株式会社フミテック		株式会社フミテック	
施工目的	除塵防黴		除塵防黴	
使用資材	テックリンウエット(防黴用ウエットタオル)		テックリンウエット(防黴用ウエットタオル)	
	テックリンドライ(除塵用ドライクロス)		テックリンドライ(除塵用ドライクロス)	

IV. 新収蔵品・収蔵美術品の貸出し

新収蔵品

令和5年度寄贈	蓬春を含む日本画家の絵葉書	66点
	封筒	7点
	書簡	4点
	写真	2点
	パンフレット	1点

令和6年度寄贈	書簡	5点
	写真	1点
	絵画	11点 ※下記を参照



山口蓬春 《望郷 小下図》
昭和28年(1953) 紙本着色 額装 23.5×16.5cm
第9回日展《望郷》の小下図



山口蓬春 《春耕》
大正12-13年(1923-24)頃～昭和2-3年(1927-28)頃
紙本墨画 軸装 31.7×41.1cm



山口蓬春 《富貴図》
昭和15年(1940)頃 紙本墨画淡彩 軸装 43.0×55.5cm



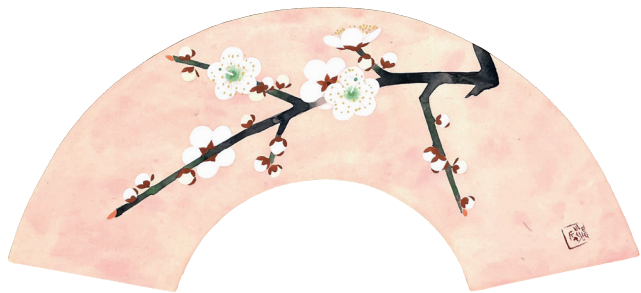
山口蓬春 《筆立》
制作年不詳 紙本着色 額装 29.5×21.0cm



山口蓬春 《紅梅》扇面
昭和42年(1967) 紙本着色 額装 18.0×39.5cm



山口蓬春 《蘭》扇面
昭和42年(1967) 紙本着色 額装 20.5×45.0cm



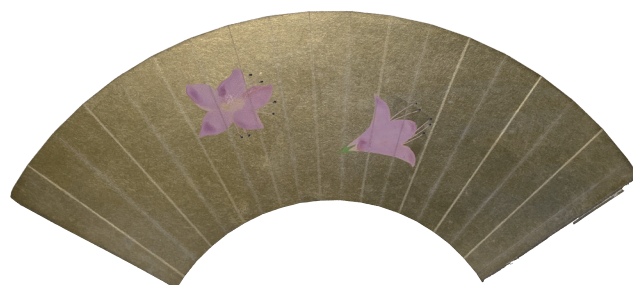
山口蓬春 《白梅》扇面
昭和42年(1967) 紙本着色 額装 18.0×39.5cm



山口蓬春 《松》扇面
昭和42年(1967) 紙本着色 額装 20.5×45.0cm



山口蓬春 《首夏(つゝじ)》扇子
昭和40年(1965)頃 金地着色 軸装 24.5×56.0cm



山口蓬春 《首夏(つゝじ)》扇子
昭和40年(1965)頃 金地着色 額装 23.5×65.0cm



土屋禮一 《蓬春先生》
令和5年(2023) 紙、鉛筆・墨 額装 24.0×21.0cm
『連盟ニュース』No.487 2023年7月号掲載

V. 収蔵美術品の貸出し

No	開催年度	展覧会名	会期及び会場	主催	作品名
1	平成5年	特別展「やまと絵—雅の系譜—」	平成5年10月13日(水)～11月23日(火・祝) 東京国立博物館	東京国立博物館	伝土佐光吉《十二月月風俗図》 一帖
2	平成6年	「やまと絵の軌跡 中・近世の美の世界」	平成6年10月8日(土)～11月6日(日) 大阪市立美術館 大阪市立美術館	大阪市立美術館 読売新聞大阪本社	伝土佐光吉《十二月月風俗図》 一帖
3	平成6年	「黄金の美術サマライと豪商の文化展」	平成6年11月12日(土)～平成7年2月19日(日) ベラスケス宮殿(スペイン)	文化庁 国際交流基金	伝土佐光吉《十二月月風俗図》 一帖
4	平成12年	「季節を祝う京の五節句 新春・雛祭・端午・七夕・重陽」	平成12年4月21日(金)～5月21日(日) 京都府京都文化博物館	京都府京都文化博物館	伝土佐光吉《十二月月風俗図》 一帖
5	平成12年	東京経済大学創立100周年記念展 「大倉喜八郎と東経大百年」	平成12年10月1日(日)～10月28日(土) 大倉集古館	東京経済大学	山口蓬春《市場(小下図)》
6	平成12年	没後170年記念展「良寛さん」	平成12年11月17日(金)～12月17日(日) 京都文化博物館	日本経済新聞社 京都文化博物館	良寛《桑原祐雪宛書簡(厳寒の節)》
7	平成13年	特別展「美術の中のこどもたち」	平成13年10月2日(火)～11月11日(日) 東京国立博物館平成館	東京国立博物館	伝土佐光吉《十二月月風俗図》 一帖
8	平成14年	「描かれた明治、写された明治—明治天皇とその時代」	平成14年9月24日(火)～9月30日(日) 銀座三越8階 催物会場	産経新聞社	山口蓬春《扇面 乃木將軍》 山口蓬春《花菖蒲》
9	平成14年	特別展「行事絵—四季の彩り—」	平成14年10月6日(日)～11月24日(日) 和泉市久保惣記念美術館	和泉市久保惣記念美術館	伝土佐光吉《十二月月風俗図》 一帖
10	平成15年	「みどりのちから—日本近現代絵画にみる植物の表現」展	平成15年4月12日(土)～5月25日(日) 群馬県立館林美術館	群馬県立館林美術館	山口蓬春《春野》
11	平成15年	「輝ける慶長時代の美術 桃山から江戸へ」	平成15年10月4日(土)～11月9日(日) 徳川美術館	徳川美術館 中日新聞社、文化庁	伝土佐光吉《十二月月風俗図》 一帖
12	平成15年	「牧野虎雄展 郷土が生んだ孤高の洋画家」	平成15年10月11日(土)～11月16日(日) 上越市立総合博物館	上越市立総合博物館 新潟日報社、BSN新潟放送	合作《六潮羅久可幾》、牧野虎雄・外狩素心庵《扇面 暁風白露》、 牧野虎雄《芒の原》
13	平成16年	メディアセンターオープン記念 「神奈川の名品で見る日本の近代美術」	平成16年5月21日(金)～6月20日(日) メディアセンター	そごう美術館 神奈川新聞社	山口蓬春《枇杷》《南嶋薄暮》
14	平成16年	「琳派・RIMPA」展	平成16年8月21日(土)～10月3日(日) 東京国立近代美術館	東京国立近代美術館 東京新聞	山口蓬春《扇面流し》
15	平成17年	開館記念特別展「美の国日本」	平成17年10月16日(日)～11月27日(日) 九州国立博物館	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、NHK 福岡放送局、NHK ブラネット九州、TNC テレビ西日本、TVQ 九州放送	伝土佐光吉《十二月月風俗図》 一帖
16	平成18年	「台湾の女性日本画家 生誕100年記念陳進」	平成18年6月3日(土)～7月23日(日) 兵庫県立美術館 平成18年7月30日(日)～9月10日(日) 福岡アジア美術館	兵庫県立美術館 福岡アジア美術館	山口蓬春《南嶋薄暮》
17	平成18年	「日本画の変革者 山口蓬春展」	平成18年10月21日(土)～12月24日(日) 神奈川県立近代美術館 葉山	神奈川県立近代美術館	山口蓬春《燈籠大臣》ほか 全29点
18	平成19年	「日本近代画家の絶筆」展	平成19年7月13日(金)～9月30日(日) 松本市美術館 富山県水墨美術館	全国美術館会議	山口蓬春《桃(未完成)》
19	平成19年	「王朝の恋—描かれた伊勢物語」展	平成20年1月9日(水)～2月17日(日) 出光美術館	出光美術館	山口蓬春《扇面流し》、伝依屋宗達 《伊勢物語国色紙》
20	平成20年	「超『日本画』モダニズム—堂本印象・児玉希望・山口蓬春—」	平成20年10月3日(金)～11月30日(日) 京都府立堂本印象美術館	京都府立堂本印象美術館	山口蓬春 本画8点《夏影》《泰山木》《枇杷》《紫陽花》《まり藻と花》 《花菖蒲》《瓶花》《南嶋薄暮》 素描1点《枯山水(苔寺)》合計9点
21	平成21年	「花—美と生命のイメージ」展	平成21年4月11日(土)～5月31日(水) 横須賀美術館	横須賀美術館	山口蓬春 本画2点《花菖蒲》《紫陽花》、素描4点《花菖蒲(素描集25)》 《阿やめ》《紫陽花》ほか 合計6点
22	平成21年	「館林でつつじの絵を—世界一のつつじの名所に全国から名画を迎えて—」	平成21年4月18日(土)～6月21日(日) 群馬県立館林美術館	群馬県立館林美術館	山口蓬春 素描 《ツツジ》《白ツツジ》
23	平成21年	秋季特別展「戦国ふあっしょん—武将の美学—」	平成21年10月10日(土)～11月15日(日) 徳川美術館・名古屋蓬左文庫	徳川美術館、名古屋蓬左文庫、中日新聞社、文化庁	伝土佐光吉《十二月月風俗図》 一帖
24	平成23年	生誕250年記念展 「酒井抱一と江戸琳派の全貌」	平成23年8月30日(火)～10月2日(日) 姫路市立美術館 平成23年10月10日(月・祝)～11月13日(日) 千葉市美術館	姫路市立美術館、千葉市美術館、細見美術館	尾形光琳《飛鴨図》
25	平成24年	開館60周年記念「吉川霊華展」	平成24年6月12日(火)～7月29日(日) 東京国立近代美術館	東京国立近代美術館	吉川霊華《何仙姑》
26	平成25年	「戦争／美術 1940～1950 モダニズムの連鎖と変容」	平成25年7月6日(土)～10月14日(月・祝) 神奈川県立近代美術館 葉山	神奈川県立近代美術館	山口蓬春《南嶋薄暮》

27	平成25年	美術展「葉山にゆかりの画家たちⅣ～山口蓬春生誕120周年～」	平成25年9月24日(火)～11月25日(月) 葉山しおさい博物館・葉山町立図書館	葉山町教育委員会	書籍『桃太郎誕生』『源氏物語現代語縮約版』『夕映えの男』『つゆくさ』『源氏の花』『宇野信夫戯曲選集第1回』『黄金の針 女流評伝』『辻留・向付』『にこごり抄』全9点
28	平成25年	「小津安二郎の図像学」	平成25年12月12日(木)～平成26年3月30日(日) 東京国立近代美術館フィルムセンター	東京国立近代美術館フィルムセンター	山口蓬春「椿」縮図帖、写真(小津と芸術家たち)
29	平成25年～26年	生誕120周年「岩田正巳展—新興大和絵、その清澄なる世界—」	平成26年3月1日(土)～4月13日(日) 新潟県立近代美術館	新潟県立近代美術館	山口蓬春《初夏の頃》
30	平成26年	「東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術」	平成26年2月13日(木)～3月18日(火) 平成26年5月14日(水)～6月8日(日)	福岡アジア美術館 府中市美術館	山口蓬春《南嶋薄暮》
31	平成26年	開館30周年記念展 「遊亀と軒彦—師からのたまもの受け継がれた美—」	平成26年10月11日(土)～11月24日(月・祝) 滋賀県立近代美術館	滋賀県立近代美術館	良寛《十字街頭》《今日乞食》《短歌ながつきの》《短歌わがまちし》《勸受食文》
32	平成26年	平成26年度特別展「微の美術—日本・中国の小ささと緻密さの造形—」	平成26年10月10日(金)～11月30日(日) 和泉市久保惣記念美術館	和泉市久保惣記念美術館、和泉市教育委員会、和泉市、一般財団法人和泉市文化振興財団	菱田春草《櫻草之図》
33	平成27年	「はっこり美術館」	平成27年4月18日(土)～6月14日(日) 横須賀美術館	横須賀美術館	山口蓬春《望郷(小下絵)》 山口蓬春《瑣輪》(素描)
34	平成27年	Sōtatsu: Making Waves	平成27年10月24日(土)～平成28年1月31日(日) Arthur M. Sackler Gallery(ワシントンD.C.)	国際交流基金、スミソニアン研究機構フリーア・サックラー美術館	俵屋宗達《伊勢物語図色紙》第24段梓弓 山口蓬春《扇面流し》
35	平成27年	「日韓近代美術家のまなざし—「朝鮮」で描く」	平成27年4月4日(土)～5月8日(金) 神奈川県立近代美術館 葉山 平成27年5月16日(土)～6月28日(日) 新潟県立万代島美術館	神奈川県立近代美術館 新潟県立万代島美術館	山口蓬春《市場 小下図》
36	平成27年	「東山魁夷と昭和日本画の礎—結城素明・中村岳陵・山口蓬春」	平成27年10月24日(土)～12月13日(日) 市川市東山魁夷記念館	市川市東山魁夷記念館	山口蓬春《紅梅》《洩る・陽》《花菖蒲》、素描《梅》《芍薬》《楓》《カトレア》
37	平成27年	特別展「笑いかたち—絵が笑う絵で笑う—」	平成27年10月10日(土)～11月29日(日) 和泉市久保惣記念美術館	和泉市久保惣記念美術館、和泉市教育委員会、一般財団法人和泉市文化振興財団、文化庁	伝土佐光吉《十二ヶ月風俗図》一帖のうち正月・二月、九月・十月を展示
38	平成27年	「神々の黄昏」東西のヴィーナス出会う世紀末、心の風景、西東	平成27年10月31日(土)～平成28年1月24日(日) 大分県立美術館	大分県立美術館	山口蓬春《吉祥天像 模写》《吉祥天像》《三彩樹下美人俑》《加彩女子俑》
39	平成29年	特別展「信長襲来!？」	平成29年7月14日(金)～8月20日(日) 岐阜市歴史博物館	岐阜市歴史博物館	伝土佐光吉《十二ヶ月風俗図》一帖
40	平成30年	「第24回 秘蔵の名品 アートコレクション展」	平成30年7月30日(月)～8月23日(木) ホテルオークラ東京	企業文化交流委員会	山口蓬春《洩る・陽》《新冬》《白蓮木蓮》
41	平成30年	「生誕135年 石井林響—千葉に出づる風雲児—」	平成30年11月23日(金・祝)～平成31年1月14日(月・祝) 千葉市美術館	千葉市美術館	山口蓬春旧蔵 古墨 及び 拓本 鯨柱墨/百子図唐墨/七香図唐墨/海會唐墨/紅色墨(蓮池藻魚図)/黄墨(康熙年間製)/緑墨/瑠璃色墨/朱墨/群青棒墨(螺鈿箱入)
42	平成31年	特別展「遊びの流儀 遊楽図の系譜」	平成31年6月26日(水)～8月18日(日) サントリー美術館	サントリー美術館	伝土佐光吉《十二ヶ月風俗図》一帖 山口蓬春《士女遊楽図》双幅
43	平成31年	大山忠作美術館開館10周年特別企画展「新五星山展」	平成31年10月13日(日)～11月17日(日) 二本松市大山忠作美術館	二本松市、二本松市教育委員会	山口蓬春《新冬》
44	令和元年	「山口蓬春展 新日本画創造への飽くなき挑戦—新しき日本の伝統美、その時代を超えて—」	令和元年8月7日(水)～8月19日(月) 日本橋高島屋SC本館8階ホール 令和元年8月28日(水)～9月9日(月) 大阪高島屋7階グランドホール	朝日新聞社、NHKプロモーション(東京会場)、NHKプラネット近畿(大阪会場)	山口蓬春《初夏の頃》ほか全29点
45	令和2年	開館15周年記念特別展「日本画と歌舞伎の世界—東山魁夷と近代日本の名画—」	令和2年10月24日(土)～12月27日(日) 市川市東山魁夷記念館	市川市東山魁夷記念館	山口蓬春《新冬》《白蓮木蓮(旧新橋演舞場緞帳原画)》《住之江 小下図(大阪・旧新歌舞伎座緞帳原画)》
46	令和3年	「没後50周年 山口蓬春展 蓬春が目指した、新しい日本画の可能性—伝統美なのか、新たな創造美なのか—」	令和3年4月14日(水)～4月26日(月) ジェイアール名古屋タカシマヤ10階特設会場	中日新聞社、NHKエンタープライズ中部	山口蓬春《初夏の頃》ほか全49点
47	令和4年度～5年度	令和4年度春季企画展「印章—刻まれてきた歴史と文化—」	令和5年3月11日(土)～5月8日(月) 山梨県立博物館	山梨県立博物館、山梨日日新聞社、山梨放送	尾形光琳《飛鴨図》
48	令和5年	特別展「宗達—物語の風景 源氏・伊勢・西行—」	令和5年9月17日(日)～11月12日(日) 和泉市久保惣記念美術館	和泉市、和泉市教育委員会、一般財団法人和泉市文化振興財団	俵屋宗達《伊勢物語図色紙》第24段梓弓

Ⅵ. 刊行物の発行



『山口蓬春素描集』改訂第三刷

発行時期:令和6年(2024)10月

掲載内容:ごあいさつ、新日本画の技法(抜粋)／山口蓬春、植物の素描、その他の素描、年譜・作品リスト

VII 外部機関への協力、連携等

地域連携事業

令和5年度	葉山町茶道連盟と連携した茶会の開催 神奈川県立近代美術館 葉山、葉山しおさい博物館(公園)との連携割引(通年) 鎌倉市鐔木清方記念美術館との相互割引 神奈川県立葉山公園との写生教室ならびに葉山を巡るスタンプラリー(11月1日(水)～12日(日)開催、協力:葉山しおさい公園、山口蓬春記念館、神奈川県立近代美術館 葉山、後援:葉山町教育委員会生涯学習課)
令和6年度	葉山町茶道連盟、神奈川県立横須賀高等学校茶道部(12月14日(土))、神奈川県立逗子葉山高等学校茶道部(3月15日(土))と連携した茶会の開催 神奈川県立近代美術館 葉山、葉山しおさい博物館(公園)との連携割引(通年) 鎌倉市鐔木清方記念美術館との相互割引 大佛次郎記念館との相互割引ならびにスタンプラリー 神奈川県立葉山公園との葉山を巡るスタンプラリー(令和7年3月1日(土)～16(日)開催、協力:葉山しおさい公園、山口蓬春記念館、神奈川県立近代美術館 葉山、後援:葉山町教育委員会生涯学習課) 神奈川県立葉山公園との地域連続講座「葉山・逗子の自然と歴史」(3月1日(土)開催、協力:葉山町教育委員会生涯学習課、山口蓬春記念館、理科ハウス、IGES国際生態学センター)

外部機関への協力、連携等

葉山町文化財保護委員会(令和5年～)	担当学芸員:岡田修子
半蔵門ミュージアム 特集展示「堅山南風《大震災実写図巻》と近代の画家 大観・玉堂・青邨・蓬春」への協力ならびに講演	会期:令和5年7月19日(水)～11月5日(日) 講演:「半蔵門ミュージアムの日本画を楽しむ—その魅力と画面に隠されたひみつ—」(8月26日(土)) 担当学芸員:笠 理砂
明治神宮ミュージアム「明治を描く—壁画に挑んだ画家たち—」への協力ならびに講演	会期:令和6年10月12日(土)～12月1日(日) 講演:ミュージアム講座(11月14日(木)) 担当学芸員:岡田修子
明治神宮国際文化研究所主催オンライン研究会「明治を描く—外苑聖徳記念絵画館の壁画複製記録を読み解く 第2回」報告(11月30日(土))	担当学芸員:岡田修子
県立社会教育施設公開講座「神奈川県立近代美術館 鎌倉別館」40周年記念連続講演会	講演:「「知の泉」としての山口蓬春文庫」(令和6年12月7日(土)) 担当学芸員:笠 理砂
大佛次郎記念館テーマ展示「大佛次郎と山口蓬春—作家と画家、重なるまなざし」への協力ならびに講演	会期:令和7年1月21日(火)～4月20日(日) レクチャー:「大佛次郎と山口蓬春 時代を拓いた小説家・画家」(3月22日(土)) 担当学芸員:笠 理砂
外部機関紙等への執筆	「列島の日本美術史—知られざる美の交錯」(古田亮編著、ミネルヴァ書房)のうち第17章「山口蓬春」を担当 刊行年月日:令和7年3月30日 担当学芸員:笠 理砂
博物館実習	実施日:令和6年8～9月のうち全6日

山口蓬春記念館 年報 第四号

令和7年6月

編集・発行

山口蓬春記念館

神奈川県三浦郡葉山町一色2320(〒240-0111) 電話046-875-6094

制作

株式会社 crA

YAMAGUCHI HOSHUN MEMORIAL MUSEUM ©2025